

第13回

BELCA賞決定

BELCAではこのたび、第13回 BELCA 賞の表彰物件(10物件)を以下の通り決定いたしましたので、お知らせいたします。

なお、表彰式は来る平成16年5月18日(火)16時より、東京都中央区日本橋蛸殻町のロイヤルパークホテルで開催されます。

第13回 BELCA 賞表彰物件

ロングライフ部門

(五十音順)

	物件名	所在地	竣工年	用途	所有者	設計者	施工者	維持管理者
1	MOA 美術館	静岡県熱海市	1981	美術館	宗教法人 世界救世教	(株)竹中工務店 鹿島建設(株)	(株)竹中工務店 鹿島建設(株)	宗教法人 世界救世教
2	ザ・シンフォニーホール	大阪市北区	1982	コンサートホール	朝日放送(株)	大成建設(株)	大成建設(株)	朝日放送(株)
3	新青山ビルディング	東京都港区	1978	事務所 店舗 駐車場	三菱地所(株) (株)日本獣医師会 (株)東京都獣医師会 金原 尚子	(株)三菱地所設計	(株)間組	三菱地所(株)
4	世界貿易センタービルディング	東京都港区	1970	事務所 バスターミナル 店舗	(株)世界貿易センター ビルディング	(株)日建設計 (株)武蔵構造力学 研究所	鹿島建設(株)	(株)世界貿易センター ビルディング
5	三輪そうめん山本本社	奈良県桜井市	1983	事務所 工場 倉庫	(株)三輪そうめん山本	(株)竹中工務店	(株)竹中工務店	繁建築設計事務所

ベストリフォーム部門

(五十音順)

	物件名	所在地	竣工年	改修年	用途		所有者	改修設計者	改修施工者
					改修前	改修後			
1	旧古賀銀行	佐賀県佐賀市	1906	1997	事務所	博物館	佐賀市	(株)石橋建築事務所	(株)建設センター
2	群馬県 昭和庁舎	群馬県前橋市	1928	2001	県庁舎	美術館 NPO サロン バスポートセンター 喫茶室 会議室	群馬県	(株)佐藤総合計画	清水建設(株) 池下工業(株) (株)関電工 金井興業(株)
3	ノリタケの森	名古屋市西区	1954	2001	窯業土石製品製造工場	店舗 レストラン ギャラリー	(株)ノリタケカンパニー リミテド	大成建設(株)	大成建設(株)
4	ふれあい横浜メディカルセンタービル	横浜市中区	1989	2002	ホテル	病院 シニアホテル	(株)メディカルドリー ム	(株)伊藤喜三郎建 築研究所 (株)梓設計	清水建設(株)
5	横浜赤レンガ倉庫	横浜市中区	1911	2002	保税倉庫	文化施設 商業施設	横浜市	(株)新居千秋都市 建築設計	(株)竹中工務店

BELCA 賞の概要

BELCA 賞は、適切な維持保全を実施したり、優れた改修を実施した既存の建築物のうち、特に優秀なものの関係者をロングライフ、ベストリフォームの2部門により表彰し、もって良好な建築ストックの形成に寄与することを目的に設けられた、我が国初の既存建築物の総合的表彰制度です。

BELCA 賞は平成3年に創設され、今回の表彰が13回目となります。

受賞者には(社)建築・設備維持保全推進協会会長より表彰状が贈られ、また建物所有者に対しては、文化勲章受章者・文化功労者の彫金作家帖佐美行氏の手による賞牌が贈呈されます。

表彰の種類として、ロングライフ部門とベストリフォーム部門の2部門が設けられています。

ロングライフ部門は、建築物のロングライフを考慮した適切な設計のもとに建設され、長年にわたり適切な維持保全が実施され、建築後20年以上を経過した建築物のうち特に優秀なものを表彰するものであり、ベストリフォーム部門は最近改修され、その改修により画期的な活性化が図られ、改修後1年以上を経過した建築物のうち特に優秀なものを表彰するものです。

なお、受賞者はロングライフ部門については、建物所有者、設計者、施工者、維持管理者の四者であり、ベストリフォーム部門については建物所有者、(改修に際しての)設計者、(改修に際しての)施工者の三者になります。

また、過去の主な受賞物件と今回の表彰物件まで含めた受賞数は以下の通りです。

ロングライフ部門・・・世界平和記念聖堂、三井本館、服部時計店、国立劇場

日本生命日比谷ビル、在日米国大使館大使公邸、経団連会館

伊予銀行本店、丸石ビルディング、立教学院諸聖徒礼拝堂

日清製粉株式会社鶴見工場工場本館 等63物件

ベストリフォーム部門・・・大阪マーチャングाइズ・マートビル、南座、霞ヶ関ビル

神戸郵船ビル、水の科学博物館、横浜市大倉山記念館

品川女子学院、聖路加国際病院1号館・トイスラーハウス

大和銀行虎ノ門ビル、ピーエス株式会社オランジュリ 等63物件

第13回 BELCA 賞選考委員会

(順不同・敬称略)

委員長	内田 祥哉	(東京大学名誉教授)
副委員長	三井所 清典	(芝浦工業大学建築学科教授)
副委員長	鎌田 元康	(東京大学大学院工学系研究科教授)
委員	上田 博司	(東急不動産㈱ 都市事業本部建設企画部統括部長)
〃	五十殿 侑弘	(鹿島建設㈱ 専務取締役)
〃	可児 才介	(大成建設㈱ 常務設計本部長)
〃	清水 重男	(㈱三菱地所設計 取締役技師長)
〃	瀬田 光雄	(三機工業㈱ 常務取締役空調衛生事業部長)
〃	中島 修一	(ダイケンエンジニアリング㈱ 常務取締役)
〃	永原 昌平	(㈱石本建築事務所 専務取締役)
〃	山端 良幸	(日本電設工業㈱ 常務取締役)

第13回 BELCA 賞選考総評

BELCA 賞選考委員会委員長 内田 祥哉

BELCA 賞は、わが国において良好な建築ストックの形成に寄与することを目的に設けられた賞で、適切な維持保全を実施したり、優れた改修を行った既存の建築物のうち、特に優秀なものを選び、その関係者をロングライフ、ベストリフォームの2部門に分けて表彰している。平成3年より始まったBELCA賞は、これまでに12回、合計で116物件の建築物の関係者を表彰した。

地球環境問題などを背景に、建築物の長期利用の機運が盛り上がり、建築物のコンバージョンに関心が高いことから、今回も全国から多数の応募をいただいた。

第10回の選考より、両部門あわせて10物件以内を表彰することとしたが、選考の結果、今回もロングライフ部門、ベストリフォーム部門それぞれ5物件、合計10物件を表彰することとなった。部門別の枠を外して以来、図らずも3回連続して両部門5物件ずつの表彰となった。

ロングライフ部門で表彰する5物件は、関係する方々が不断の努力で維持保全に努められた成果であり、「建築物のロングライフ化」という今後の課題に対し、答えが得られたものとする。今後とも、さらに永く使い続けられることを期待したい。

一方、数年来の「コンバージョン」への関心の高まりに合わせ、ベストリフォーム部門には、多くの物件の応募をいただいた。選ばれた5物件はいずれも改修前の主な用途とは異なる物件である。用途を変えて活用するには、法的な対応が求められるので、これらの物件で示された様々な工夫や技術は、今後の建築界に新たな知見や手法を提供するものと期待している。

これ迄の受賞物件は東京都内に在るものが多く、全体の約4割を占めていた。しかし、今回は都内の受賞が2物件にとどまり、これまで表彰物件のなかった静岡県と佐賀県から新たに受賞物件が出た。BELCA賞の影響は着実に各地に広まっており、BELCA賞のさらなる全国への浸透を期待したい。

今回表彰される物件が、わが国の優良な建築ストックの形成に寄与することを願い、受賞物件の関係者に対し深く敬意を表したい。

第13回 BELCA 賞ロングライフ部門選考講評

BELCA 賞選考委員会副委員長 鎌田 元康

第13回 BELCA 賞ロングライフ部門には全国から優れた維持保全を行った物件の応募をいただいた。竣工年代別にみると、1980年以降に竣工した物件が過半を占め、平成17年度（第15回）から変更されるロングライフ部門の募集条件“竣工後30年以上を経過したもの”に該当する物件は少数にとどまり、受賞まで至った物件は1件となった。比較的新しい建物の応募が多かったといえる。1次の書類審査を通過した建物に関し、2次の現地審査を行い、厳正な審査の結果、BELCA 賞ロングライフ部門の表彰物件となったのは、以下の5物件である。

「MOA 美術館」(1981年竣工)は、竣工時に、壮大な構想の美術館、エスカレーターを大量に駆使して来訪者を山上に導くという思い切った発想で話題となった美術館である。長期の維持保全計画に基づいて、ほぼ完璧な維持保全がMOA グループの専従職員によって行われ、さらに、年間4,500人もの「アート・ボランティア」が館内案内や清掃にあたっている点が高く評価された。また、光ファイバーケーブルの高速・大容量化、氷蓄熱設備の採用などによる IT 化対応や省エネ対応も行っている。

「ザ・シンフォニーホール」(1982年竣工)は、現在の日本でも数少なく、竣工当時により希少価値のあるクラシック音楽専用ホールとして建設された建物である。残響時間2秒を実現するため、模型実験を含めた詳細な検討の末に建てられた建物であり、このホールの音響性能の維持を第一優先課題として、音響反射体・拡散体の維持・保全、客席の木製椅子の張り替え、発生音対策を考えての設備改修などが極めて着実に行われてきた点が高く評価された。また、計画当初考えられなかった女性聴衆の増加に伴う女子便所の増設、休憩時間をより充実させるための諸施設の改修なども違和感なく成功させており、設備機器設置スペースに余裕があったため設備改修も無理なく行われている。

「新青山ビルディング」(1978年竣工)は、商業とオフィスの複合ビルであり、周辺の街並みに溶け込むように配慮した人工地盤の広場をもち、ツインタワー状の形状をした、地域冷暖房、中水施設を含んだ建物である。オフィス内部の梁背をすべて600mmに抑え、梁下でダクトや配管の取り回しを可能とした構造方法をとっていたため、時代の要請に応じて中廊下式のオフィスを大部屋形式に容易に改修できたこと、OAフロアの導入に際し、空調システムを改修し逆に天井を高くし、高効率照明器具を積極的に採用し照度を向上させるなど、室内環境の改善にも常に取り組んでいることが高く評価された。また、綿密な維持・管理計画のもとに維持・管理が行われており、設備機器設置スペースが余裕をもって計画されていたため、更新・改修が無理なく行われている。

「世界貿易センタービルディング」(1970年竣工)は、“世界貿易と交通に関するセンター”として、霞ヶ関ビルに続いて東京で2番目に建てられた超高層ビルである。竣工後10年目に中期修繕計画を立案、20年目には第一次リニューアルを実施、40年目の2010年には第二次リニューアルが計画されるなど、長寿命化に対する堅実な考え方が高く評価された。また、フレキシビリティの高いセンターコア方式、余裕のある設備スペースなどの当初の妥当な計画から、維持・管理・更新が無理なく行われており、さらに不要になった電話交換室を転用しての IT サーバーセンターの設置、太陽光発電設備やガスタービン・コージェネレーションの導入など、適切な IT 化対応、省エネ対策を行っている。

「三輪そうめん山本本社」(1983年竣工)は、“目立たない建物、人々が寄り付きやすく親しみやすい建物”をコンセプトとして建設されたが、竣工後3期に亘っての増築を重ねても、その配慮が見事に効果を発揮している点、建設当時から続いている、建築主、建築顧問、設計者、施工者の連絡体制、清掃や簡単なメンテナンスは社員自らが行う体制などが高く評価された。また、雨水貯留槽により周辺環境に配慮しており、瓦葺きの精度・鋼製建具のディテールが現在も建設当初の精度を保っている。

以上5件の授賞物件は、当初計画が妥当であったもの、維持・保全が計画に従い、堅実に、かつ熱意をもって行われたものであり、真の意味で“幸せな建築”と呼ぶにふさわしいものばかりである。

第13回 BELCA 賞ベストリフォーム部門選考講評

BELCA 賞選考委員会副委員長 三井所 清典

今回の BELCA 賞ベストリフォーム部門にも多数の応募をいただき、はじめから競争の激しさ、審査の難しさが予想された。しかも前々回以来、選考の過程ではベストリフォーム部門とロングライフ部門を区別せずに審査を進めることとしているため、競争は一層激しくなる。両部門を区別せずに審査を進める理由は、部門間の区分が明確化しにくいからであり、特に「リフォーム」の概念の幅が広いベストリフォーム部門に応募されたものの中には、ロングライフ部門の方がふさわしいかあるいはロングライフ部門に限りなく近いと思われることが度々ある。従って今回もロングライフ部門の応募を含め全応募物件を対象に一次審査を行った。続く二次審査（現地審査）も両部門の区分をせず、現地の状況を確認しながら、審査側で方針をだし、応募者と協議して判定することとした。結果として選ばれた10件は、応募者の応募区分通りの両部門それぞれ5件ずつとなり、今年度の BELCA 賞が決定した。BELCA 賞ベストリフォーム部門の受賞作は以下の通りである。

「旧古賀銀行」は、明治39年に竣工した擬洋風建築で、一見レンガ造のように見える外壁はタイル貼の木造の建築である。構造の木部が雨水の浸透による腐敗が著しく、取壊しを勧める声もあったが、明治・大正期にかけての金融施設建物が昭和時代を通して街のシンボルとなり、市民の愛着も深く、街並み形成の重要な建物として保存され展示施設に生れ変わった。今回のリフォームで主室を吹抜の空間に戻す作業や木造骨組の外側に平瓦を張り詰め、その上にタイルを圧着する原仕様を、実験を重ねて再現した努力などが讃えられる。

「群馬県昭和庁舎」は、昭和3年に佐藤功一の設計で建設された優れた建築であり、新庁舎の建設に伴い、県民利用のための施設に用途替えして保存されたものである。今回のリフォームは影響の最も少ない部分に効果的な耐震補強を行い、必要な設備機能を巧みに付加し、内装はオリジナルのもつ風格を残す配慮がされている。その中には、更なる活用とリフォームを未来に託す意図も感じられる。昭和10年位までのわが国の庁舎は、豊かさを感じさせる建物が少なくないが、それらの扱いのモデル的手法を示している建物といえる。

「ノリタケの森」は、明治37年の創業以来活動し続けてきた工場施設の改修と一部取壊しによって産業施設の記念碑的な展示施設として、新しい都市空間を創造した優れたリフォームである。JR 名古屋駅にごく近い地域で、閉鎖的な工場施設を明るく活気のある開放空間に変えた意義は深い。かつての、工場の象徴であった煙突を新しい公園的空間のシンボルに変貌させたデザインは巧みで注目を引くものであった。

「ふれあい横浜メディカルセンタービル」は、ホテルを医療施設及び福祉施設に用途替えした興味深い施設で、いわゆるコンバージョンのさきがけ的な成功例である。平成元年に竣工したばかりの、真新しい建築がホテルとして立ち行かなくなって、法律や空間の常識の壁を越えて進められた計画で、発注者と設計担当者さらに行政も加えた、建物を活かそうとする強い意図が、このプロジェクトを成功させたといえる。病院の救急部門、各種検査室、手術室などが、ホテル時代の婚礼部門、貸衣装室などのリフォームであることが意表をつくもので楽しい。

「横浜赤レンガ倉庫」は、明治44年及び大正2年に竣工した2つの港湾倉庫で、妻木頼黄の設計である。建築の形、ディテール、材料の選択等密度の高い建物である。横浜市は、これを港の空間とそれに因む産業活動の記憶装置として保存する努力を重ね、周辺の開発と一体的な商業業務文化施設として蘇らせた。そこで使われたデザインガイドラインとそのコントロールの手法が巧みで、原設計のデザインを壊さないという目的がよく達成されたリフォームである。

ベストリフォーム部門で表彰された建物は、以上のようにその用途も歴史も異なるものであるが、いずれも周辺環境の保全と更新に努め、利用者や周りの人々に好感を与え、文化の表象としての建築を尊重する意図のあるものばかりであった。また、エネルギーや資源の節約を含め、地球環境の保全に貢献していることはいうまでもない。